

サッカーにおけるゴールキーパーのフィードトレーニングについて

Feed training of goalkeeper in soccer

1K04B153-1

戸田 裕之

指導教員

主査 土屋純先生

副査 堀野博幸先生

目的

近年、サッカーでは、ゴールキーパーという特別なポジションが様々なルール改正や現代のサッカーの変化により改めて見直されてきている。それに伴いゴールキーパーの役割は非常に多岐に渡るようになってきていると言える。自分の守るゴール前にボールが来たときにのみプレーをすれば良いわけではなく、試合で目指すものは、「チームの勝利」であり、その目的を達成するために、試合中、常に集中し、ゴールキーパーとしての役割を果たす必要があるといえる。

その中でもボールを保持したときの次の行動、つまり、6秒間という限られた時間の中で適切フィードができるかという1つの攻撃参加が重要になってきたといえるのである。サッカーという競技は、攻撃と守備が一瞬で入れ替わる競技である。味方がボールを持ったときから攻撃が始まる。チームで守備の最後の砦といわれるゴールキーパーはボールを持ったときに攻撃の起点となる。つまりゴールキーパーのフィード次第で得点の可能性は大きく変わると考えられる。

ゴールキーパーがフィールドプレーヤーにパスを出すときの手段であるスローイングやキックに関しては記されているものは多いが、「適切な状況判断」をできるようにするための練習方法は「実践で養っていく」などとししか記されていないものが多い。

本研究では、現代のゴールキーパーがフィードに関しての自信の有無や意識、また今までのフィードにおけるトレーニング方法を調査し得られた知見から、フィードトレーニングを考えるにあたり、注意すべき点や、意識させるべきキーファクター等を調べることで、今後のゴールキーパー指導法の一助とすることを目的とした。

方法

関東リーグに所属する現役ゴールキーパーとプロゴールキーパーにアンケートをとり、その結果をフィードの自信の有無を基準に分析する。得られた知見

からフィードトレーニングを考えるにあたり、注意すべき点や、意識させるべきキーファクター等を調べる。

結果

フィードに自信のある選手はフィールドプレーヤーと同じようにボールがくる前から周りの状況を確認しているプレーヤーが多い。しかし、過去にフィールドプレーヤーの経験があるとは言い切れない。ゴールキーパーの年数が長くてもフィードに悩みを持っているプレーヤーはプロ選手でさえいるようだ。また、ボールを保持した際には得点に繋がることを意識してフィードするようにしている。その際、相手のゴール付近を見ているプレーヤーが多い。そして、フィードに自身のあるプレーヤーはその根拠をフィード手段となるキックやスローイングの技術に自信をもっていることからだと感じているという回答が多かった。どんなに状況が適切に判断できていても狙ったところに蹴れなければ意味が無いからであろう。

考察

ゴールキーパーに「必要な攻撃への参加」の1つであるフィードトレーニングを行うにあたり効果的なのはゲームあるいはスモールゲームである。その中でゴールキーパーはフィールドプレーヤーと同じようにボールがくる前から周りの状況を確認し、ボールを保持した際にはまず相手のゴール付近の味方を見るようにすること、そこから順番に近いところを見ていく、また、単に味方に渡れば良いというわけではなく、味方が次のプレーをしやすく且つ効果的なプレーができるようなフィードをするようにも意識させる。つまり得点に繋がるようなパスを出すように意識させることが重要になると考えられる。その際の手段となるキックやスローイングの技術は常に練習していくことが不可欠となってくるであろう。それは味方が受けやすいボールを出すことが次のプレーに繋がるという利点にもなると考えられる。